



こんにちは
市議員

井坂博文

議会報告
2017年11月12日号
です

連絡先／日本共産党北地区委員会：京都市北区紫野雲林院町78／電話432-3261／FAX441-4968

9月議会を終えて 声明を発表



11月2日、9月市会が終了。今市会は、安倍首相による大義なき解散総選挙によって、議会日程を変更して選挙期間中を「休会」にして、選挙後に再開したもの。

この休会措置について、党議員団は「京都市政と市議会にとって国政は密接に結びついている。国

の法律による行政の縛り、地方交付税はじめ地方財政対策による財源確保など影響は大きい」として、「休会」措置をとって各々の政治活動の保証をするよう求めた。

そして、再開後にはただちに議案審査の常任委員会、市長に対する決算委員会総括質疑をおこなう、各会派で議案の態度を決める議員団会議を終えて、終了本会議となった。

本会議では、各党入り乱れて(？)22人が討論に立ち、議案への賛成・反対の討論をおこなう、共産党議員団からは私を含め10人が討論と意見表明をおこなった。さながら大討論会であった。朝10時から開会し昼休みを挟んで本会議のすべての議題が終わったのは2時半を越えていた。

前半議会の討論を含め議員団の集団検討によって練られた党議員の討論を読めば、今議会の内容がよくわかる。それをまとめて「市会を終えて」声明を発表した。

声明は、議員団のHPおよび私のフェイスブックに掲載している。是非お読みください。

え、美術館入口広場が「京セラスクエア」に?!

「京セラスクエア」に?!

25日、文化環境委員会が開かれた。文化市民局から市美術館再整備後の館内施設のネーミングライツの報告に対する質疑、美術館屋外モニユメント切断に関わる陳情と市美術館再整備後の施設運営に関する陳情の審議がおこなわれた。

管内施設のネーミングライツ報告に関して質疑



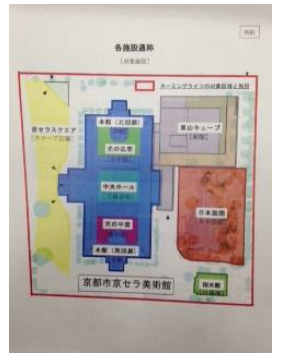
台風21号の残した爪痕

した。命名を審査する審査委員会がなぜ非公開でおこなわれたのかを質すと、副館長は「率直な意見交換ができないから」とか「公平・中立性が損なわれるから」と説明。そこで「なんで率直な意見が出せないのか、公平・中立性が損なわれるのか」と改めて聞くと、「条例で決まっているから」としか言えず、全く答えになっていない。そこで政策監が「ネーミングライツに反対の意見を持つ市民の方がいるから・・・」とフォローしたが、フォローになっていない。そんな市民の声と視線が怖いのか! 「語るに落ちる」とはこのことである!

80年前に市民や企業の寄付で誕生し、長年現在の名称で親しまれてきた美術館入り口前の玄関前広場に「京セラスクエア」と命名したことについて「一企業の名前をつけた広場を通して入館することになる。80年の歴史になかったことであり、多くの市民に理解され、親しまれるとは思えない」、さらに「これから50年間、京セラの名前の下でイベント会場として利用され、企業の絶好の宣伝となる」と追及すると、副館長は「広場の通称名は、美術館の総称名と連動し、分かりやすい名称になる」と強弁。この「感性」では文化や芸術を語る資格はない!モニユメントを切断破壊すること根っこは同じだ。

80年の風雪に耐え、老朽化した美術館を再整備することに異論はない。しかし、既存の展示スペースが保持されるのか、京セラのレセプションやイベントに振り回されて本来の美術館機能がおろそかになりはしないか。今後の再整備の進展をきちんとチェックしていかなければならない。

北区では、北部三学区を中心にした台風による倒木で道路が寸断されて通行止め、関電とNTTの電線の寸断による停電を始めライ



フライインの破壊が相次いだ。土木事務所を始め行政関係機関の昼夜を分かたぬ復旧活動で、5日目にしてなんとか復旧の目処は立った。ありがたいです。

住民の声を聞くと、「何処がどうなっているのか、復旧の目処がどうなっているのか、情報が入ってこないから、対応のしようがない」という声を多く寄せられた。災害の際の早い情報把握、適切な情報提供が今後の教訓として活かすべき。

新大宮商店街では街路樹が突風にあおられて倒木したり枝が飛んで、テントが複数損壊した。現場に駆けつけて担当課に連絡したが、「生木(なまき)による災害の場合は、京都市の瑕疵(かし)にはなり難く、市の管理責任を問われるものではない」という返事。

その理屈は分かるが、市の管理する街路樹に起因する損壊であり、なんとかならないものだろうか。農業における災害対応の場合には産業観光局で復旧支援のメニューがある。引き続き行政担当課と協議して、支援を考えていきたい。

さらに、私の住むマンションの近所にある今宮神社の大鳥居が強風にあおられて、南側に傾いてしまった。神社は、支え棒をかまして支えるというが、大丈夫だろうか?

至福のひと時

総選挙をはさんだ9月市会も終わり、娘夫婦に「晩御飯でも一緒に食べようか」と声をかけて、孫に会いに行った。

「よく食べるね～」と声をかけると、嬉しそうに手を叩いて喜んで何回もおかわり。いっぱい食べたお腹を披露。

ご飯のあとは遊びタイム。いまハマっているのは、テープの積み立て遊び。つかまり立ちしながら、積み上げては自分で拍手してあそんでいる。娘曰く「安上がりやわ～」と。



じいじの膝に座って、遊んでくれる。なににも勝る至福の時だ。